

## 様式第1号(第5条関係)

## 会議概要

会議の名称	第3回久喜市食育推進会議
開催年月日	平成28年3月22日(火)
開始・終了時刻	午後1時15分から午後2時50分
開催場所	鷺宮総合支所 4階 405会議室
議長氏名	野原 宏
出席委員氏名	新井 和江、鈴木 敬一、野田 恵子、濱田 亜砂子、平塚 修子、山田 實、染谷 和美、高木 学、上岡 齊、根本 昌子、高瀬 由美、杉田 孝行、齋藤 勝義、島野 弘子、羽柴 直子、宮内 智、野原 宏
欠席委員氏名	折原 憲司、岡田 竜一、塚越 敏夫
説明者の職氏名	小沢課長補佐兼健康企画係長、小澤主任、島田主事
事務局職員職氏名	立川健康増進部長、小林健康増進部副部長兼健康医療課長、小沢課長補佐兼健康企画係長、小澤主任、島田主事
会議次第	<p>1 開会      2 あいさつ      3 議題      (1) 第2次健康増進計画・食育推進計画の概要(案)について      (2) 第2次健康増進計画・食育推進計画 策定スケジュール(案)      について      (3) 健康・食に関するアンケート調査結果報告      (4) 現計画における評価指標の達成状況について      4 その他      5 閉会</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回久喜市食育推進会議 次第</li> <li>・資料1 第2次健康増進計画及び食育推進計画の概要(案)</li> <li>・資料2 第2次久喜市健康増進計画・食育推進計画 策定スケジュール(案)</li> <li>・資料3-1、3-2 健康・食に関するアンケート調査結果 報告書</li> <li>・資料4 現計画における評価指標の達成状況について</li> <li>・別紙 食育に関する課題抽出シート</li> </ul>
会議の公開又は非公開	公開
傍聴人數	0人

## 様式第2号（第5条関係）

## 審議会等会議録

発言者	会議のてん末・概要
小林副部長兼課長	<p>1 開会</p> <p>皆様、こんにちは。</p> <p>本日は大変お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>定刻となりましたので、ただ今より、第3回久喜市食育推進会議を始めさせていただきます。</p> <p>はじめに、審議会等を開催した場合には、久喜市審議会等の会議の公開に関する条例により、会議録を作成し公表することになっております。</p> <p>公表するにあたり、本日、出席された委員の皆様には、会議録の内容をご確認いただきますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、お手元の次第に基づきまして、進めさせていただきますが、ここで、配布資料の確認をさせていただきたいと存じます。</p> <p>(配布資料の確認)</p> <p>次に、本日の会議の終了予定時刻ですが、2時45分とさせていただきたいと考えておりますので、ご協力をお願ひいたします。</p> <p>次に次第の2『あいさつ』に移ります。野原会長よりご挨拶をいただきたいと存じます。</p> <p>野原会長よろしくお願ひいたします。</p>
野原会長	(会長あいさつ)
小林副部長兼課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>なお、本日は、3名の委員が都合により欠席されております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 折原 憲司 委員</li> <li>・ 岡田 竜一 委員</li> <li>・ 塚越 敏夫 委員</li> </ul> <p>でございます。</p> <p>3 議題</p> <p>それでは、次第の3、議題に入らせていただきます。</p> <p>議事の進行につきましては、久喜市食育推進会議条例第7条第1項の規定によりまして、野原会長に議長をお願いし、議事を進めていただきたいと存じます。</p> <p>野原会長、よろしくお願ひいたします。</p>

議長(野原会長)	<p>それでは、暫くの間、議長を務めさせていただきます。</p> <p>円滑に議事が進行いたしますよう、皆様方の特段のご協力をお願いいたします。</p> <p>次第に戻りまして、議題の（1）第2次健康増進計画・食育推進計画の概要（案）について、事務局から説明をお願いします。</p>
小沢課長補佐兼係長	<p>資料1に基づき（1）第2次健康増進計画・食育推進計画の概要（案）について、ご説明いたします。</p> <p>この資料1でございますが、本日は食育推進会議でありますから、食育の部分のみとなるところでありますが、平成28年度は現在の食育推進計画と健康増進計画の両計画とも第2次計画を策定すること、食育の推進と健康づくりは一体的に推進すべき、又推進していること考え方資料を作成させていただいたことから、第2次健康増進計画及び食育推進計画の概要（案）となっているところでございます。</p> <p>第2次の食育推進計画につきましては、現在の計画を基本とし、国や埼玉県の重要施策と整合性を図りつつ、アンケート調査の結果や各種統計による市民の現状と課題の改善を目指す計画としたいと考えているものでございます。</p> <p>また、現在の食育推進計画は、食育のみで1冊の計画となっているところでございますが、事務局としましては、健康づくりと食育は一体的に推進すべきものと考え、共通事項を一つにまとめ、第2次計画は食育推進計画と健康増進計画を1つに合わせた計画としたいと考えているところでございます。</p> <p>資料裏面をご覧いただきたいと存じます。</p> <p>資料裏面には、第2次計画の構成（案）を記載させていただきました。現在の健康増進計画と食育推進計画を1冊に合わせた場合のイメージでございます。</p> <p>作成する計画書の名称は、計画を策定していく中で検討したいと思いますが、暫定的に健康増進計画・食育推進計画とさせていただいております。また、内容については、第1章から第3章までは、健康づくり・食育を共通で作成し、第4章は健康増進、第5章は食育、最後に共通事項です。第6章が第3章の「計画のめざすところ」と同じ文章になってしまっておりますので、第6章を「計画の推進・評価」にご訂正ください。この内容については、あくまでもイメージでありますので、策定の中で名称や項目等は変更になると考えておりますが、このような構成で策定してまいりたいと考えております。</p> <p>計画期間につきましては、現在の食育推進計画と同じ5年間の計画としたいと考えております。期間は、平成29年度から33年度となるところでございます。</p> <p>位置づけでございますが、まず食育推進計画につきましては、食育基本法第</p>

	<p>18条によるものでございます。また、国第3次食育推進基本計画及び埼玉県の第3次食育推進計画との整合を図るものでございます。</p> <p>また、市の総合振興計画や地域福祉計画、子ども・子育て支援事業計画などの各種計画と整合を図ってまいります。</p> <p>一番下の表につきましては、国、県、市の計画の計画期間を表したものでございます。</p> <p>食育に関する計画につきましては、国の計画が5年間（平成28年度から平成32年度）、県の計画が3年間（平成28年度から平成30年度）の計画となっているところでございます。</p> <p>以上で、資料1の説明を終わります。</p>
議長(野原会長)	<p>ただいま事務局から、第2次健康増進計画及び食育推進計画の概要（案）について、説明がありました。ご質問等あればお受けいたします。</p> <p>概略としましては、今まで2冊あったものを1冊にすると。内容的にはそれぞれの特色をもたせるということでございます。</p> <p>ご質問はよろしいでしょうか。それでは続きまして、（2）第2次健康増進計画・食育推進計画 策定スケジュール（案）について、事務局から説明をお願いします。</p>
島田主事	<p>資料2に基づきまして、第2次久喜市健康増進計画・食育推進計画 策定スケジュール（案）について説明させていただきます。</p> <p>第2次計画の策定まで、健康づくり・食育それぞれ4回の推進会議と庁内連絡会議・作業部会を開催し、計画の内容等について話し合いを進めてまいります。</p> <p>食育推進会議委員の皆様にご出席いただくのは、網掛けになっている部分になります。次回、6月上旬を予定しております、第4回の会議では、計画の体系・基本理念・基本目標等について検討していただきます。</p> <p>8月下旬に予定しております、第5回の会議では、計画の各分野の目標・評価指標・推進体制等について検討していただきます。</p> <p>11月中旬に予定しております、第6回の会議では、パブリックコメントにかけるための素案を完成させます。</p> <p>11月22日から12月21日にパブリックコメントを実施し、来年1月の会議でパブリックコメントにて提出された意見について検討し、最終的な修正等も済ませて完成させ、その後印刷・製本をして3月には冊子になる予定で進めています。</p>
議長(野原会長)	事務局から第2次久喜市健康増進計画・食育推進計画 策定スケジュール（案）について説明がありました。

この件についてご質問等あればお受けいたします。  
特にないようでしたら、続きまして、(3) 健康・食に関するアンケート調査結果報告について、事務局から説明をお願いします。

島田主事

資料3-1、3-2に基づきまして、健康・食に関するアンケート調査結果について報告させていただきます。

資料3-1は回収したアンケート結果を全体と男女別で分析したもので、資料3-2は男女別・年代別に分析したものになっています。

それでは資料3-1でアンケートの結果について説明をさせていただきます。前回と大きく数字の変わった項目に絞って、簡単に説明させていただきます。

まず、本調査は16歳以上の2,000人を対象とした市民調査、市内公立中学校11校の2学年1組を対象とした中学生調査、市内公立小学校23校の5学年1組を対象とした小学生調査の3種類行いました。16歳以上の市民調査は回収率が前回の「53.3%」から「44.9%」と大きく減少していました。

7ページをご覧ください。こちらには今回アンケートにご回答いただいた方の属性が記載しております。性別・年齢・居住地区は市民全体に対する割合とほとんど等しくなっております。

では、分野ごとに見ていきますが、初めに資料の訂正をさせていただきます。10ページの上側、「問6 適切な食事の量や内容を知っていますか。」という問い合わせのグラフですが、一番上の全体のグラフの左「50.0%」を「49.9%」に修正をお願いします。また同じグラフの右「1.3%」を「1.4%」に修正をお願いします。また2つ下の女性のグラフですが、左の「55.7%」を「55.6%」に修正をお願いします。

では、まず【栄養・食生活】の分野は全体的には横ばいから改善傾向でした。大きく変化していたのは、10ページの適切な食事の量や内容の認知度で、適切な食事の量や内容を知っていると答えたのは、前回は63.8%でしたが、今回は50%と大きく減ってしまいました。

次に12ページの下側、朝食の摂食状況では、16歳以上ではほとんど毎日朝食を食べている人の割合は前回のアンケートとほとんど変化がありませんでしたが、次の13ページの年代別のグラフを見てみると、若い世代ほど朝食を食べていないということが読み取れます。また、その下は小中学生に対する同じ質問の回答結果ですが、中学生は87.0%から男性91.5%、女性90.6%とやや改善していますが、小学生は92.1%から男性91.9%、女性90.2%とやや減っています。

次に20ページの食育の認知度で、下の小中学生の結果が、言葉も意味も知っている人は中学生が前回18.6%から今回25%程度、小学生は前回

25. 5%から今回34%程度と、学校での食育の普及啓発に力を入れていただいているので、その成果が出てきたことがわかりました。

次に【運動習慣】の分野は全体的には横ばいから悪化傾向でした。大きく変化していたのは、25ページの小中学生に対する問い合わせで、問14学校の授業以外で運動をしているか、では「いつもしている」と回答した小学5年生が前回49.5%に対して今回男性51.4%、女性33.8%と女性で大きく減っていることが分かります。また問16自分の体力に自信があるか、では「自信がある」と答えた小学5年生が前回43.4%に対して今回男性30.8%、女性32.3%と減っていることが分かります。また、問14から問16を全体的に見ると、男女間で運動に対する意識に大きく差があることがわかります。

次に【休養（こころ）】の分野については、前回と大きく変化のある項目はなく、おおむね横ばいでした。

次に【喫煙】の分野については、喫煙者の割合はほとんど変わっていませんが、1日に吸うたばこの本数は増加傾向、禁煙または節煙したい人は減少するなど、喫煙者の意識が低下していることが分かりました。しかし、能動喫煙や受動喫煙の健康影響を認識している人は大きく増加しており、知識面では改善傾向にあると分かりました。

次に【お酒（アルコール）】の分野については、喫煙と同様飲酒者は増加、飲酒量も増加傾向にありますが、飲酒の健康影響を認識している人は増加していました。

次に【歯の健康】の分野については、全体的に横ばいから改善傾向でした。

次に【健康づくり】の分野については、全体的には横ばいから改善傾向でした。大きく変化していたのは49ページの、小中学生のメタボリックシンドロームの認知度で、「聞いたことがあり内容を知っている」と「聞いたことがあるが内容は知らない」を合わせると、前回は中学生が97.3%に対して今回男性65.8%、女性62.3%、小学生も前回が86.9%に対して今回男性41.7%、女性32.3%と大きく減少していました。

また、最後の58ページになりますが、今回新たに設問に加えた、健康増進計画・食育推進計画・健康・食育まつりの認知度は、計画を「内容までよく知っている」、まつりを「知っていて、参加したことがある」のはいずれも3%程度に留まっており、計画・まつりは市民に十分周知されていないことが分かりました。

議長(野原会長)

ただいま事務局から、健康・食に関するアンケート調査結果報告について、説明がありました。ご質問等あればお受けいたします。

宮内副会長

小中学生のアンケートの対象は前回と同じですか。それによって数字も違つ

	てきてしまうと思うのですが。
島田主事	対象者の選び方は同じですが、前回回答した方が今回も回答しているというわけではありません。
議長(野原会長)	<p>小学5年生と中学2年生というところは一緒ですよね。言葉や内容を知っているというところは、前回は数字が良すぎたというのもあるかも知れませんね。</p> <p>それでは他にないようでしたら先に進ませていただきます。議題の（4）現計画における評価指標の達成状況について、事務局から説明をお願いします。</p>
小澤主任	<p>資料4 現計画における評価指標の達成状況について説明させていただきます。</p> <p>平成22年度に行いました、アンケート調査の結果の現状から課題となる指標を決めて平成27年度の目標値を定めてあります。先ほどのアンケート調査の結果で説明したとおり、今回アンケート調査の結果が出ましたので、目標値が達成できたかどうか評価を行いました。達成できた項目については、評価の欄に二重丸(◎)をつけています。上から順に見ていきます。朝食を食べない市民の割合、朝食の欠食率については、小中学生は改善しているのに対し、20代の男性・女性、30代の男性については悪化傾向という結果でした。次の自分にとっての適切な食事の量や内容を知っている市民の割合でございます。先に資料3-1と同様の資料訂正があります。平成27年度アンケート結果というところに「50.0%」とありますが、「49.9%」に修正をお願いします。こちらの指標も悪化傾向という結果でした。次の食育の言葉や意味を知っている市民の割合というところは全体的に改善傾向で、中学生は目標値達成という結果でした。次に食事をよく噛みゆっくり食べる市民の割合、その次の地元産食材を優先的に購入する市民の割合は、少しですが改善傾向という結果になりました。学校給食における地元産農産物を使用する割合なんですが、こちらは数字が確定するのが遅いため、平成25年度の実績が入っています。こちらが37.1%ということで、目標値達成となっております。平成26年度の数値が確定していませんが、この数値が大きく下がるということもないようですので、平成26年度も目標値を達成しているものと考えております。次の毎日きちんととした食事を楽しくゆっくり食べる市民の割合なんですが、数字だけを見ると小学生が一番高いんですけども、平成22年度の数値と比較すると、小学生のみが若干悪化傾向という結果でした。最後の食文化を伝える市民の割合は悪化傾向という結果でした。8つの指標・16の目標値に対して、目標値を達成したのは2つの項目でした。</p> <p>この後、先ほどの資料3-1、3-2のアンケート調査結果と、ただいまの</p>

	<p>評価指標を踏まえて、食育に関する課題について、事前に配布させていただいた「課題抽出シート」に基づいて、委員の皆様のご意見をいただければと思います。</p>
議長(野原会長)	<p>それでは、食に関する課題抽出シートというのがあるかと思いますが、ご検討いただいた結果や、今日の説明についての見解についてでも結構ですので、委員の皆様から1人ずつご意見をいただければと思います。</p> <p>最初から関与している高木先生からお願ひできますか。</p>
高木委員 <医師会>	<p>アンケート調査は良い数字が出てきていると思います。ただ、アンケート調査というのは、答える方のそれぞれの解釈によっても大きく理由が変わってしまうので、数字が向上しているものの、実際市民の方々あるいは児童・生徒の健康に結びついているのかどうかというところの評価も合わせてしまいかないと、我々の作った計画が本当に正しい方向性をもっているかどうかというところに疑問をもつところです。</p> <p>医師会のほうから言うと、市民の皆様が食育の認知度が向上しているという1つの指標が特定健診の受診率かなと思います。当然皆さん心配であれば受診し、なおかつ受診結果を反映させ改善が見られているというところで、やはりこういった意識の向上とともに特定健診受診率あるいはその結果の特定指導によって皆さんの健康状態が改善できているかどうか、というのも今回指標に加えていくべきではないかなと感じます。</p> <p>それから子どもたちについては、朝食の摂取率が非常に高いということですけれども、我々も概念的に「朝ごはんをたべると健康になる」とか「肥満が減る」あるいは「『起立性調節障がい』という学校で朝礼中に気持ち悪くなることが減る」とかいうんですけれども、実際そうなのかなというのを実際に自分では推移をとってないので、いろいろなレポートからとっているだけなので、子どもたちのアンケートの中にも、実際に朝食をとっている人ととてない人で健康状態に変わりがあるのか、そういったことも分析していかないと、今度は「朝ごはんを食べなさい」と言える信憑性・裏づけがないような気がします。そういうことが今後課題であると考えています。</p>
上岡委員 <歯科医師会>	<p>歯科医師会のスタンスというか食育に関しては、各ライフステージにおける食育推進のあり方、関係機関・職種における歯科保健と食育推進の方法、また新たな視点を踏まえた歯科保健対策の推進をやっていきたいと考えております。このアンケート調査に関して、私は中学校の校医をやっておりまして、食育に関することや睡眠に関するなどを、中学生では保健委員会で発表をなさっているんですね。その結果、アンケート調査にも出ていますけれども、小中学生の食育のレベルというのは高い。反対に、二十歳とか我々くらいの年齢の良</p>

	<p>い面というのがでてきていない感じがします。せっかく良いアンケートをとっているんですけども、広報活動ができていないんじゃないかなという感じがいたします。特に久喜地区以外の地域の方のアンケートを見ると、食育についてよくわかっていないんじゃないかな、健康・食育まつりの会議でも言いましたが、地域差が大きすぎるのではかという感じがいたします。そこらへんの広報活動の仕方を変えていかないと、このような会議がありますので、惜しいなと思います。</p>
根本委員 <薬剤師会>	<p>医師会・歯科医師会の先生と概ね同じ意見ですけれども、わたしたちはいつも皆様に薬を投与している立場といたしまして、なんでこんなに生活習慣病とかその中で糖尿病とかいろんな患者さんがかなりお薬を飲んでいますので、いかに最初から食生活でそういうものを減らしていくことが大事なんじゃないかなと考えております。特に20代30代が朝食をとらないというのがアンケートで出てきますけれども、悪化状態にあるという結果を見ますと、やはりそういう人たちのために、やはり20代30代は仕事のシフト関係で朝は起きないから朝食を食べないとか生活習慣があるんじゃないかなと思うので。朝食を取れない人というのは、メタボリックシンドロームになりやすく、将来的には薬を飲むようになって、薬の投与や、最後には透析にまで至るわけですから、もっとフォローが必要なんじゃないかと思います。</p> <p>それから、高木先生も言っていましたが、特定健診は40歳以上が対象なんですね。だからその40歳になるまでの人们にもっと意識をもっていただけたるような、そのような活動をしていけたらいいのかなと思います。</p> <p>あと健康・食育まつりが、わたしは菖蒲なんですが、お知らせしてもなかなか久喜の会場まで足が向いていかない。あとは関心のある人が来るんですね。そういう傾向があるかなと思います。</p>
高瀬委員 <啓和会>	<p>先ほど高木先生もおっしゃられましたが、朝食をなぜ取らなければいけないのかということを、メリット・デメリットをきちんと知らせていく必要はみんなに伝わっていくのではないかと感じました。</p> <p>またアンケートで、喫煙や飲酒について悪いことだとは分かっているけれど実際にはやめられない、量を減らせないというのは、自分が病気にならないとわからないというのがあるんだろうなと感じています。</p> <p>健康・食育まつりなんですが、回を重ねるごとに認識度はあがっていくのかなというように感じているので、これからも続けていければいいのかなと感じました。</p>
杉田委員 <JA南彩>	<p>農産物直売所の視点から気付いたことを申し上げます。 農産物直売所やインショップ（事務局注：スーパーなどに入っている地元農</p>

産物の直売所)などでは地元で生産されている野菜や果物、卵など多種多様に一年を通じて買い求める消費者が年々増加しています。また新鮮で安心して食べられるなど健康づくりを考える人たちや、旬を感じ久喜市内でもたくさんの農産物が生産されていることを知って消費する方が増えています。

一方、忙しくて料理がなかなかできない家庭では、外食・惣菜など、手軽に利用できるものも多く、昔から伝わる伝統料理が食卓に並ぶことが少なくなっています。このような食物は季節感や行事、家族のコミュニケーションなど、食文化に大切な役割を担っているので、料理教室や広報活動などで、伝えてゆくべきと考えます。

また、アンケート結果につきましては、小学生・中学生は学校での食育活動の中からよく理解していると思われます。

20代30代では時間が不規則だったり、自由に買い求めたりコンビニを利用することも多く、食育は理解していても実践できないのではないかと考えます。

先ほどの学校給食における地元農産物の使用割合ですが、26年度ですが参考に申し上げますと、全農食品(久喜地区)には年間32品目25,648kg、鷺宮にも12品目を出荷している状況でございます。

齋藤委員  
<商工会>

食品の安全性が脅かされていましたり、食に関する適切な判断力が低下してきていることが課題であると考えます。

また、朝食は人間の身体をつくり、活動の源となるものですので、栄養バランスの取れた朝食をとつて健康な身体をつくる必要があると考えます。

島野委員  
<全農食品>

健康・食育まつりを知らない人がこれだけ多いということで、これが現実のかなと感じました。市民に呼びかけるには間近にお知らせするだけではなくて、もう開催日が決定しているので毎回毎回広報紙のどこかに「健康・食育まつり何月何日に実施」とか毎回目に触れるところに載せたらどうかなと思います。また子どもたちの学校給食では、食文化の継承について、こちらも力をいれて行っています。特に和食が平成25年度にユネスコ無形文化遺産に登録されましたが、学校給食はそれ以前から和食のポイントということで、季節感や健康的な食材の並び具合、鮮度、各月の行事など取り入れたものを実施しています。昔ながらの伝統料理は食べる機会が少なくて、やはり小学校1、2年生のお子さんになると食べる機会が少なかったということで、どんなものが入っているのか、それがわかつてからじゃないとなかなか口にしない。卒業していくまでの間に繰り返し繰り返し季節に見合った給食を提供することで、これが伝統的な料理であるということを教えながら、だんだん食べられるようになってきているのが現状です。

年に1回、1校ずつPTAの試食会がありますが、そのときお母様方にもこ

	<p>ういった食事もいかがですかということでお勧めしているわけなんですが、いかんせん久喜地区だけでも10校の小学校あって、1回ずつだけなので、参加してくださったお母さんにはなるほどねと言っていただけるんすけれども、浸透するにはもう少しなのかなと思っています。</p>
羽柴委員 ＜食生活改善推進員＞	<p>普段の食生活で心がけていること、もっと具体的に掘り下げていかなければいけない時期に来ているんじゃないかなと思います。と言いますのも、塩分濃度を国・県・市で目標を持っているかと思いますが、実際に自分の摂取量を確認している人がどれだけいるのかというのが疑問です。塩分を減らすといっていますけれども、自分がいつも食べている、たとえば味噌汁の塩分を自分で減らしたけれども、どれだけになったか分かっている人はそうはないと思いますね。その計器があること、機械があることを知っている方がどれだけいるのかな、と思っています。なので、健康・食育まつりでもそういうコーナーを設けてもいいのかなとも考えています。わたしたちは自分の家から味噌汁を持つていて保健センターで測るということができるんですね。これは塩分を薄くするための事業ですよ、ということでそういう補助事業もあつたりします。この塩分を減らしたと言っている人たちが、どこでどのように判断しているのかが、ちょっと気になります。それから、皆さん野菜を多く取るということも、徐々にそういう意識が出てきているのかなと思いますけれども、単純に1皿多くしただけで健康寿命が伸びたとかいうこともありますので、今後心がけてほしい事を徐々に具体的にしていく必要があるんじゃないかなと思いました。この計画としては、心がけている人のデータは出ているんですけども、今後心がけていくことへの目標値が次回の計画には欲しいなと思います。</p> <p>なので、塩分濃度を測る機械をもっと皆さんに知ってもらいたいと思います。</p>
宮内副会長 ＜くらしの会＞	<p>小中学生は先生方のご指導で、十分いろんなことが理解されているように感じました。食事の内容については、特に主菜とか副菜、それから栄養素のバランスなどを考えられているのかということを考えさせられました。先ほども出ましたが、朝食について、若い世代が食育の推進認知度がだいぶ低いのかなと。それと一番気になりましたのは、不安やストレスの解消という項目がありますが、意外とそれを抱えているということ、直接食とは関係ないのですが、気になりました。今後の課題としては、やはり食育の推進で、食育推進計画も理解されていませんし、地産地消とか伝統、郷土料理、そういうものの推進、また健康・食育まつりの周知、関心のない人に関心をもってもらうってなかなか難しいのですが、一番大きな課題で、このへんからもっとしっかりやっていくって、皆さんに理解してもらうことが必要かなと思いました。</p>

野原会長 <学識経験者>	<p>最初の計画を立てるときからずっと考えてみると、久喜市は取組みも早かったですけど、割合と順調にすすんでいるのかなと。健康・食育まつりもまだまだ認知されないとは言いながらも定着しつつありますし、健康づくり推進会議委員と食育推進会議委員とが両方でまつり実行委員会をつくれるのが、足並みもそろって同じ方向を向いてやってきた1つの顕れなのかなと私も思っておりますし、あとは久喜市内のバランスというのもあるんだと思いますね。</p> <p>私もついついそのときの気持ちで食べてしまうんですね。食というのはなかなか、気持ちとくっついているものだからブレーキも利きませんし、やっぱり習慣ですから、そこまで変えられればいいんでしょうけれども。これも目標かと思いますので、運動というのは絶えず広報とか啓蒙・啓発が大事なんだろうなと思っております。</p>
新井委員 <公募委員>	<p>今回初めて参加させていただきます。親として思うのは、やはり子どもの頃から食生活の大切さを学ぶというのが一番、大人になってからも継続されていくのではないかと思っています。ですから学校の食事も大切ですが、家庭での食育というのも念頭に置かなければいけないと思っております。先ほども出ましたが、学校給食の中で地産地消というのを進めていただくとか、農業体験を授業に取り入れたり、レジャーとして家族で楽しんでいただいたら、その中から、収穫体験とかは楽しいですよね、育てて実がなっていただけるというのは、そのように楽しみながら学んでいくというのが1つの方法なんじゃないかなと思いました。</p> <p>それから、健康・食育まつりに参加させていただいたんですが、わたしの住んでいる地域が栗橋で、そうするとデマンドバスがあっても久喜地区には入って来れないんですね。駅までデマンドバスを利用し、電車で久喜駅まで来て、そこからまたバスをつかわないといけないんですね。ですので、機動力のある方は行かれますけれども、そうでないと二の足を踏んでしまうことがあるんですね。なので、当日だけでも結構ですので、広報活動とともに足の確保といいますか、1日1往復でもいいですから行って帰ってこれるというのがあれば、もうすこし地域差というのが埋まってくるんじゃないかなと思います。</p>
鈴木委員 <公募委員>	<p>食育は全世代の人々に年齢に応じて指導は必要なんですけれども、とりわけ乳幼児、保育・幼稚園児、小学生、中学生に対する食育は、心身の成長及び人格の形成期となっているため、以後の生涯の食生活に大きな影響を与え、生涯に亘って健全な心身を養い、豊かな人間性を育む基礎となる時期と言う認識を持っています。この件については久喜市教育委員会の教育振興基本計画の中には幼児教育の充実、学校教育の充実の一環として「食育の推進」が記載されていますので、学校教育等での食育については支援体制が組まれていると思ってます。ただ、並行的にPTA、保護者会等を通して家庭の保護者にも食育の</p>

大切さを認識させが必要じゃないかと思います。というのは、子どもとの接触時間の長い家庭で実生活を通して、食事の礼儀作法を含めた食育を家庭内でも行うことができれば、単なる知識としての食育でなく実践的な食育を知恵として身につかせることができると思っています。ですから、学校と家庭とのジョイントした食育推進体制の構築が必要であると思います。

また、団体活動から考える課題や目標ということで、小学校の図書ボランティアをやっておりますが、就学前児童、小学校低学年向けの食育関係の絵本がたくさんあります。親子で同じ絵本を家庭内で見ているだけでも食育の理解が進むんじゃないかと思っています。たとえば、「家族で食育！朝ごはん」という4部作では、「からだ元気！朝ごはん」「脳がすっきり！朝ごはん」「早ね早起き！朝ごはん」「休日ゆっくり！朝ごはん」などがあります。家庭の保護者が余裕のある時間に県立久喜図書館、市立中央図書館に行かれて手にとってみることも必要じゃないかと思います

また市民アンケートをみて、朝食の設問で80～90%の人は朝食をとっているが、6.5%の人が朝食をほとんど食べないと回答している。朝食欠食の理由として、たべる時間がない、食欲がない、食べる習慣がないとの3項目が前回のアンケートと一緒に傾向がでているんですね。前回に比し、朝食を食べる習慣がないのは、小中学生では減少したが、16歳以上では大きく増加する。この習慣とは、具体的には個人的なものに帰すべきものが多いと思われるが、健康維持のため朝食の有用性の観点から是正していく必要があると思います。

食育を知っていますかの設問で、「言葉も意味も知っている」との高比率回答と、久喜市健康増進計画、食育推進計画、健康・食育まつりの低認知度回答の落差が大きいのは意外でした。健康・食育まつりをこれまで4回やっていますが、毎回健康増進計画、食育推進計画の概要版を、1,000部以上を来場者に手渡ししていますが、ほとんど読まれていないというアンケート結果になっていてとてもびっくりしました。両計画等の認知度向上には記載内容の確かさを表面に出した地道な活動と、催事の際の実行委員、ボランティア等の伝播性が強い口コミの利用も心がけるべきだと思います。今回作成する新たな計画書には、どのようにしたら読んでもらえるか・理解してもらえるかという観点からの編集が必要ではないかと考えます。

また評価指標を見て、基本目標1「健康ながらだをつくる食育」関係の4指標10評価項目については小中学生では食育の成果が伴い4評価すべてで向上が見られたが、16歳以上は6評価項目中、朝食を食べない等の4項目で評価が低下した。朝食の欠食は意外に根が深いように見受けます。基本目標2「地域を知る食育」関係の2指標2評価項目はすべて向上が見られ関係者の努力の成果が出ているんじゃないかと思います。基本目標3「豊かな心を育む食育」関係の2指標4評価項目は3評価項目が低下した。小学生が学業、クラブ活動

等の生活の余波を受けているのか、学校が終わってすぐご飯をたべて塾に行ってしまうとか、落ち着いた食事がままならぬ状態となっているのかなと思いました。また地域の食文化を後世に伝える作業は、地域のボランティアなどがよく見ていないと難しいんじゃないと思います。伝統的な料理があまりレシピ化されていないんじゃないかと思いますね。レシピ化して残さないと、あつというまになくなってしまうんじゃないかなという憂いがあります。

野田委員

<公募委員>

食生活改善推進員として中央保健センターで指導を受けています。

アンケートを見て、20～30代女性は子育てや仕事で忙しくて、食への関心が薄いのかなと思いました。そしてわたしたちとしてみれば、ほうれんそやブロッコリーをゆでるときには塩は使わないとか、魚の焦げはがんを誘発するので気をつけるとかそういうのを考えております。また埼玉県は県民数に比べて病院や医師数が不足していますので、自分では病気にならないように、食事、運動をして気をつけていきたいと思っています。それから禁煙ですが、病院にいけば2ヶ月くらいでやめられるそうなんですけれども、やはり今の社会ではストレスとのバランスでやめられない人もいるのかなと、このデータを見て感じました。またコンビニの弁当もおいしくなるように調味料や塩分も多いので、できれば若い人のお母さんたちには、家でつくった食事をしていただきたいなと思っています。歯科健診に行く人が多いのがこちらのデータに入っておりました。それはいいことだなと思いました。また健康診断を受診している人も多いですが、そのあと医療機関の受診とか保健指導をうけていない年代というのが20代30代前後の方に多いのが残念かなと思いました。それと小学生のストレスについて、相談相手がいるということはすごくよいことだなと思いました。趣味を持って生活している人が多くて、こころにゆとりを感じているのかなと思いました。

濱田委員

<公募委員>

アンケートの回収率が悪いので残念だなと思ったんですけども、もっと回収率を上げる方法があれば、と思いました。回収率が悪いとデータの信頼性も薄くなります。BMIの集計のところですが、国民栄養調査で出ているものと数字にすごく開きがあるので、回収率が悪いからこのような数字が出てくるのかなと思いました。肥満が少なく、正常な人が多いという結果になっていますが、保健所管内でもメタボの人数というのは、久喜は多いんですよね。高血圧の人も多い。そこが非常に気になりました。それから食育推進計画をずっとやってきたんですけども、あまりにも認知度が低いのがつかりしました。もっと受け入れられやすい方法を考えなければいけないと思いました。白岡で推進計画が策定されましたが、それには野菜の数字とか入ってるんですね、何グラム食べましょうとか、そのほうがわかりやすくて見てくれるのかなと思った次第です。

平塚委員 <公募委員>	<p>朝食を食べない市民が多いということで、小中学生の場合は学校でもいろいろとやっているし、それでいい結果がでてきたんだと思いますけれども、20代男性のところは低いので、朝食の必要性はどこにあるという人も多いので、今の小中学生が大きくなったときはそうでもないのかなと思いますけれども、どうにかならないのかなと思います。それから、やはり夕食が遅くなると朝食が食べられないとかもありますので、やはり全体の生活リズム、朝食・昼食・夕食という規則正しい食習慣の定着が必要ではないかと思いました。健康・食育まつりは、今回参加しましたが、小中学生の発表や展示物を見て、これだけのことを勉強しているんだったら本当に幸先がいいことだなと思って感激しました。アンケートでの認知度は良くなかったですが、本当に皆さんに一度見てほしいと思いました。</p>
山田委員 <公募委員>	<p>アンケートの数字は少し厳しい結果が出てしまったのかなと思いました。小中学生の数字は大方向上しているということで、食に関する指導や保護者への啓蒙活動の成果といえるんじゃないかなと思いました。「食育の言葉や意味を知っている」割合はどの年代でも上がっているんですね。いろいろなところから情報を得る機会が増えているという状況があるのかなと思いました。しかしながら、適切な食事の量や内容を知っている割合というのが、30代男性、20代女性で下がっている。近所で60代から80代の方と話すんですけれども、健康の話題はとても増えてきているんですね。健康維持のための食事作りがよく話題になってきているんですけども、適切な食事の量とかバランスのとれた食事というのがどういうものなのか、自分で調べたり講座に参加する人はわかつても、それができないという人も多い。適切な食事の量や内容が誰でもよく分かって、取り組めるような資料提供が、行政や団体からできるとよいのではないかと思いました。</p>
染谷委員 <校長会>	<p>若い世代については家庭の中で知らせていくことが大事かなと思うんですが、その世代が忙しい中でも食育の大切さを自分で意識して、自ら改善したり工夫できるように、私たちがいかにサポートできるかが課題なのかなと思います。</p> <p>食事の内容として、主食・主菜・副菜のそろったものを食べている人が27.5%と少ないのも課題だと考えます。</p> <p>小中学生に関することはいろいろとご意見をいただきありがとうございました。学校のほうでも技術・家庭科、特別活動、総合の時間などを使いまして、食育に関する指導は続けているところでございます。結果が出てきたこともありますし、まだまだ学校としても課題と考えているところもございます。1つは健康・食育まつりでの小中学校の参加が、既に4回行いましたので、各学</p>

校が順番に参加するような形で広まってきたということで、子どもたち・保護者への啓蒙が進んでいるということで、1つ効果にあるかなと思っているところでございます。あとは確かに食育の大切さを家庭にどう繋げるかということで、関心のある保護者とそうでない保護者という差があることで、それが子どもたちに影響しているというのも事実でございますので、やはり保護者会に来ていただいている方は興味・関心があるので、そこに参加できない方に伝えるのはなかなか難しいことで、学校だよりとかも家庭に持ち帰って目を通してくださってるのかどうかということで、学校としても保護者の差を埋めていくということは常に課題だと考えております。教育の効果というのは一気に上がるものではないので、粘り強く、地道にすすめていくべきものだと思っております。ただ、朝食の欠食率は久喜市は低いほうだと思います。他の市町村と比べると、朝食をきちんととっている人が多いのではないかと思っているので、そういう意味ではある程度家庭の協力をもらっているのではないかと思っています。

今日いただいた具体的な提案だったり、ご意見は、校長会・教頭会・先生方の集まり等、そういうところでお伝えし、粘り強く地道に取り組んでいきたいと思っております。最終的には中学校を出ても、自分の力で考えて、決定する力をもっていかなければならないと思っているんですけども、家庭科においても最終的には、自分でつくれる力と、選択する力、購入するときに選ぶという自己決定力がないと最終的には流されてしまうので、いずれ親になるまでにそういうものについていくことを目指しております。自分も家庭科の教員をやってきたものですから、それを子どもたちに身につけさせたいと思ってずっとやってきたものですから、自分で決めていくということができれば、大人になっても決定していく力があるのかなと思いますので、これからもすすめていきたいと思います。

議長(野原会長)

ありがとうございました。皆さんから様々な意見をいただきましたので、事務局のほうでまとめていただいて、計画作りに反映していかなければと思います。それでは、すべての議題について終了しましたので、議長の任を解かせていただきます。

長時間にわたりまして、委員の皆様にはご協力をいただき、ありがとうございました。

小林副部長兼課長

ありがとうございました。

委員の皆様、大変お疲れ様でした。

次に、次第の4「その他」でございます。事務局から、ご連絡を申し上げます。

小沢課長補佐兼係長	(次回会議の日程連絡)
小林副部長兼課長	それでは特にご質問等がないようでしたら、次第の5「閉会」に移りたいと思います。宮内副会長ごあいさつをお願いいたします。
宮内副会長	(副会長あいさつ)
小林副部長兼課長	ありがとうございました。それでは以上をもちまして、第3回久喜市食育推進会議を終了とさせていただきます。 皆様、大変お疲れ様でした。 本日はありがとうございました。 今後とも、よろしくお願ひいたします。

会議のてん末・概要に  
相違ないことを証明するためにここに署名する。

平成28年4月12日

久喜市食育推進会議 会長

野原 宏